

初回 ゲーム王国

海外最新ソフトレポートとゲーム特集のため、ここ2回ほどお休みさせていただいた当コーナー。今回からは、再び定例の形に戻る。とはいえ、まったく以前のままというわけではない。ちょうどいい機会ということで、リニューアルを決行したのだ。より多くのタイトルを紹介していくので、今後ますますの御声援をお願いしたいところ。頼みますよ。

小笠原 誠

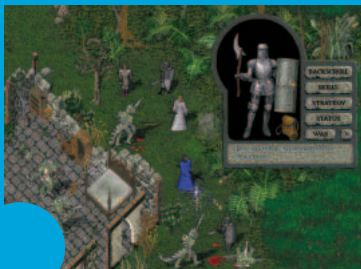


剣と魔法の3D
シューティング

HEXEN II

迫力のヘリコプター
シューティング

コマンチ3



ネットワーク
ゲームの革命

Ultima Online

RPG風味も加わった剣と魔法のアクションゲーム

3Dシューティング **HEXEN II**

プレイ人数：1人～16人

発売元 P&Aシェアウェア
価格 8,800円
対応OS Windows 95/NT4.0
関連情報 www.panda.co.jp
www.activision.com

「HEXEN」シリーズは、プレイヤーの視点で表示される迷宮を武器を片手に突き進んで行く、いわゆる「DOOM」系のソフト。とはいえ、同ジャンルの他のタイトルとは、かなり異なる雰囲気を持つ作品に仕上がっている。というのも、このソフトは、中世ファンタジー風の世界を舞台にしているのだ。そのほとんどが近未来のSF風の世界を舞台にしている「DOOM」系のソフトの中で、これはかなり異色の存在といえるだろう。

その特異性からか、前作の「HEXEN」はかなりのヒットを記録。その続編ということで、「HEXEN」もそれなりの注目は集めていた。だが、個人的には、それほどの期待はしていなかったというのが正直な感想だった。「どうせステージ構成を変えて、敵キャラ増やしたただけなんじゃない？」なんてね。ところが、実物をプレイしてみたところ、そうした先入観はまったく間違っていたことが判明した。これは単なる続編なんてもんじゃない。特にそのグラフィックときたら、もう驚くしかないというクオリティーなのだ。

前作は、この手のゲームのスタンダード、「DOOM」のグラフィック描画エンジンを利用して。それに対して「HEXEN



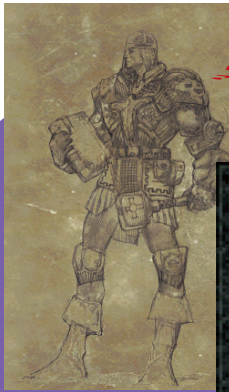
▲ 3Dシューティングには珍しいファンタジーの世界が舞台となっている。

」は、グラフィック描画エンジンに、究極の3Dゲームと呼ばれる「QUAKE」のエンジンを採用。登場するすべての物体、敵モンスターはもちろん、マップ上の木や岩までもが3D化されたことにより、究極のリアリティーが実現されているのだ。

ところでこのソフト、海外ではActivisionが販売を担当しているが、日本国

内では、その代理店であるアクティビジョン・ジャパンではなく、「DOOM」や「HEXEN」の国内販売の実績を持つP&Aシェアウェアから発売される。購入の際は間違えないように注意すべし。





The Crusader



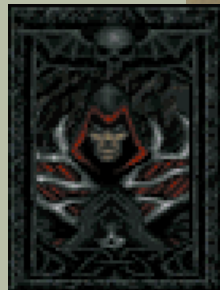
直訳すれば"十字軍戦士"だが、"戦士"というよりはむしろ"僧侶"といったほうがいいキャラクター。神の御加護があるためか、定期的に体力を回復できるという特徴を持つ。守備力も高いので、そのサバイバル能力はかなりのものだ。初期装備は、巨大なハンマー。

前作「HEXEN」が好評を得た要因の1つとして、それぞれ特徴の異なる3種類のキャラクターを選択できるという点があった。どのキャラクターを選ぶかによってゲームの進め方が大きく異なったため、たとえ1つのキャラクターでゲームをクリアしても、また新たな気分でソフトを遊び直すことができたのだ。

その特徴は、この「HEXEN」にも引き継がれている。しかも、今回は選択可能なキャラクターが4種類に増加。より深くゲームをやり込むことが可能になったのだ。それぞれのキャラクターの詳しい特徴については右を見てほしいが、このうち特に初心者におすすめなのが、"The Crusader"。このキャラクターは攻守のバランスが取れているので、そこそこ扱いやすいはずだ。

冒険の舞台となるのは、前作同様、剣と魔法が支配するファンタジーの世界。いまこの世界は、大きな危機に直面している。宇宙の彼方から邪悪な存在、サーベントライダーが飛来し、殺戮と混乱をもたらした

魔法使いの中でも、死を司る邪悪な魔術を得意とするネクロマンサー。はっきりいって体力はほとんどないが、その魔法は強力なもの。初期装備は、命を刈り取る鎌。死神のシンボルともなっているこの武器は、このキャラクターに相応しいものといえるだろう。



The Necromancer

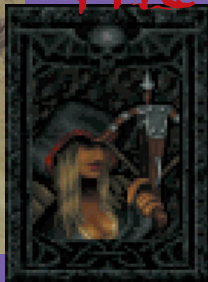
The Paladin

"騎士"の名のとおり、とにかく力で押しまくるキャラクター。遠距離攻撃は苦手とするものの、その強大な攻撃力は大きな魅力だ。初期装備は、両の拳。冒険途中で剣や斧を発見するまでは、拳でモンスターどもを殴り殺していくというわけだ。



The Assassin

直訳すると、"暗殺者"。攻撃力、防御力ともに戦士系のキャラクターには及ばないが、自分の存在を察知されずに敵に接近できるという特徴を持つ。初期装備は、鋭利な短剣。そっと背後から忍び寄り、首を掻き切るその攻撃力は、まさに暗殺者だ。



のだ。プレイヤーの目的は、この強大な敵を打ち倒すこと。だが、その敵に到達するためには、複雑に入り組んだステージを突破していかなければならない。しかもその各所にモンスターがさまよっているのは当然のこと、最終目的であるサーベントライダーの周りには、黙示録の4騎士という、これまた強力な存在に守られているのだ。プレイヤーを待ち受ける冒険の旅が長く厳しいものになることは、想像に難くないだろう。



この「HEXEN II」は、舞台設定がファンタジー世界であるという点以外にも、多くの「DOOM」系の作品とは異なる特徴がある。それは、複数のステージ間を行き来できるという点だ。

通常、この手のゲームでは、あるステージの出口に到達すると、自動的に次のステージに移行する。いわば、後戻りのできない一直線のステージ構成となっているわけだ。ところが「HEXEN II」の場合は、ゲームスタート時点から複数のステージの間を行ったり来たりすることができるようになっている。その感覚はアクションゲームというよりも、むしろ「ドラクエ」に代表されるRPG（ロールプレイングゲーム）に近いものがあるだろう。

ゲームの中には、この複数のステージを利用したトラップも用意されている。例えば、「A」というステージの中程で必要になるアイテムが、別の「B」というステージに隠されている、というケースもあるのだ。どうにも先に進めず行き詰まってしまった場合でも、決してあきらめずにはいけず、気分転換も兼ねて別のステージに行ってみよう。そこで、謎を解くカギを手に入れられるということもあり得るのだ。

▲ こういうところに秘密のスイッチやアイテムが隠されているかもしれない。



◀ この扉を開けるには特別な鍵が必要だ。しかし、同じステージの中にあるとは限らない。



▲ 水中でモンスターに出会った！画面でも水の揺らめきが表されている。



ネットワークでプレイするには

前作「HEXEN」はDOS版ソフトということでネットワークの設定が大変だったが、Windows 95版となった「HEXEN II」では、その手順が大幅に簡単になっている。まずは、インターネットに接続したのち、「HEXEN II」を起動。そのメインメニューから、「MULTIPLAYER」「JOIN A GAME」「TCP/IP」と選択していく。そして「JOIN A GAME AT」という欄に「HEXEN サーバー」のIPアドレスを入力すれば、対戦ゲームがスタートする。なお、現在利用可能な「HEXEN サーバー」に関する情報は、P&Aシェアウェアの「HEXEN II」ホームページ(<http://www.panda.co.jp/products/Hexen2/index.html>)で入手できる。



▲ まず「JOIN A GAME」を選択。



▲ 最後にサーバーのアドレスを入力する。

最新鋭戦闘ヘリコプターでさまざまなミッションに挑戦!

フライトアクションゲーム **コマンチ3**

プレイ人数: 1人~2人

発売元: マイクロマウス
 価格: 10,800円
 対応OS: Windows 95、DOS/V 5.0
 関連情報: www.micromouse.co.jp
 www.novalogic.com

いまから4年ほど前、Novalogicという新興ソフトハウス(当時)から、ヘリコプターを題材にした1本のゲームがリリースされた。「Comanche」と名付けられたそのソフトは、ヘリコプターという多少地味な題材だったにもかかわらず、発表直後から大きな反響を呼んだ。なぜなら、このソフトのグラフィックは、当時の技術水準を考えるとまさに驚異的ともいえるクオリティーを達成していたのだ。あくまでスムーズに動くその画面を目の当たりにした者は皆、腰を抜かさばかりに驚いたものだ。

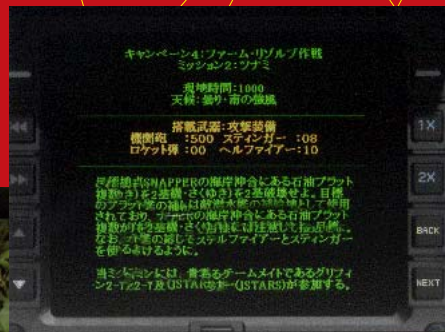
その最新作である「コマンチ3」は、このシリーズの最大の特徴である高品位グラフィックを、さらに推し進めたものになっている。新たに開発された「VoxelSpace2」

というグラフィック描画技術を利用することにより、大幅な画質の向上を果たしたのだ。そのクオリティーは、実写同様とは言わないまでも、アーケードゲームをはるかに凌駕することは確実。滑らかにスクロールしていく地表のグラフィックなどは、まるでCMに使われている最先端のCGを見ているかのよう。これは一見の価値ありだ。

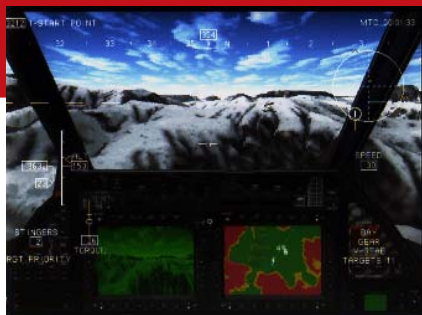
また、改良点はグラフィックだけに留まらず、肝心のゲーム性の部分にも及んでいる。当初このシリーズは、かなりゲーム寄りのその内容から、一部のシミュレーターマニアからは白い目で見られがちだった。ところがこの最新作では、そうしたユーザーの声に応えたのか、かなりリアリティーを重視した作りになっているのだ。これな

ら、フライトシミュレーター方面にはちとうるさいというマニアの方でも、十分納得してプレイできるはずだ。もっとも、操作が大幅に簡略化されたイージー・フライト・モデルという機体も用意されているので、従来の撃って撃って撃ちまくる爽快なゲーム性が好みだったユーザーや、シミュレーターには不慣れという初心者ユーザーでも対応可能だ。

なお、「コマンチ3」は基本的にMS-DOS版のソフトだが、Windows 95のオートラン機能で自動的にインストールプログラムが起動するようになっている。DOS版ソフトはちょっと……、という初心者の方も、安心してプレイしてほしい。



MISSION(作戦)を選択すると、そのMISSIONの目的とマップが表示される。



雪の降り積もる極地が舞台のMISSIONもある。

ロシアの主力戦車T-80をターゲットスコープに捕らえた! 即ミサイル発射だ。



ネットワークでプレイするには

残念ながら「コマンチ3」はTCP/IPプロトコルに対応していないので、インターネット上での対戦プレイはできない。とはいえ、シリアルケーブル直結、モデム、そしてLAN(IPXプロトコル)の3種類の接続による対戦プレイには対応している。参加可能人数は、それぞれ2人、2人、最大8人。環境が許すなら、これらの方法にトライしてみるのもいいだろう。それぞれの接続がうまくいっていることを確認したのちゲームを起動し、メインメニューからマルチプレイを選択。あとは各自の利用している接続方法を選べばOKだ。

3000人が同時にアクセス! ネット上の異世界を冒険だ!

ファンタジーロールプレイングゲーム

Ultima Online

プレイ人数: 1人~3000人以上

発売元 EAV
 価格 9,800円
 対応OS Windows 95
 関連情報 www.ea.com/EAVWEB/contents.html
www.origin.ea.com/



◀ モンスターなど一切戦わずに、町で平和に暮らすこともできる。



▶ リザードマンの群れとの戦い。1人では勝てない敵には、仲間を集めて戦おう。

あの「ドラクエ」も大きな影響を受けたという、コンピュータRPGの元祖的存在「Ultima」シリーズ。同シリーズの名を冠した新しいソフトが、数か月のベータテストを経て市場に投入された。その名は、「Ultima Online」。これを単なるシリーズものと思っ
 てはいけない。このソフトは、ネットワークゲーム、いや、ゲームに留らず、コンピュータ上のコミュニケーションに革命をもたらすタイトルなのだ。

これまでのネットワーク対応ゲームといえば、同時に参加できるプレイヤーの人数は4人程度、多くても10人強というのが通例だった。しかし、この「Ultima Online」は違う。その同時参加可能人数たるや、なんと数千人規模になるという。つまり、「Ultima Online」は、専用サーバーに用意された1つの広大な世界に、世界中のプレイヤーが同時に参加するという、前代未聞のゲームなのだ。

ゲームの舞台となるのは、「Ultima」シリーズでおなじみのブリタニアという世界。RPGでは定番ともいえる中世ファンタジー風の世界なのだが、とにかくこれが広い! Origin側の資料によれば、端から端まで移動しようとする5時間以上必要だという。プレイヤーがブリタニアの世界で何をやるのかは、「まったくの自由」。戦闘経験を積んで腕利きの冒険者を目指しても、鍛冶屋になって切れ味鋭い武器を作っても、はたまた追いつぎとなって他のプレイヤーの装備品を奪って



▶ 広大なブリタニアには極寒の地域もある。白熊やトドが生息している。

も構わないのだ。これはまさに、ネット上にもうひとつの世界があるという感覚。専用サーバーが有料(月額20ドル程度)という点が気にかかるかもしれないが、コミュニケーションの革命の場に参加できるのだ。その価値は十分にあるといえるのではないが。

なお、今後しばらくの間、「Ultima Online」は限定発売という形が取られることが決定している。これは、サーバーのトラフィック状況を確認しながら規模を拡張していくため。日本では、EAVから10月17日に第1次リリース分が発売されたが、残念ながら本誌が発売されるころには、もう売り切れてしまっているはず。現時点では今後の発売スケジュールは未定なので、どうしてもこのソフトを手に入れたい人はEAVのホームページをこまめに参照するようしてほしい。



ネットワークでプレイするには

インターネット上でのプレイを前提にしているだけあって、「Ultima Online」のネットワークプレイの参加方法は簡単そのもの。画面の指示に従っていけば、すんなりブリタニアの世界に入ることができるはず。ただし、そこからは、一般的な日本人には少々キツイものがあるかも。このゲームでは、他のプレイヤーやコンピュータが操作するキャラクター(=NPC)とのコミュニケーションがとにかく重要になるのだが、そこで使用するのがすべて英語なんです。これが。また、シリーズ本編を体験したことがある人ならご存じだろうが、「Ultima」にはもってまわった言い回し、いわゆる英国古語が頻出する。プレイ中、辞書を手放すことはできないね、こりゃ。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp